



01	“いま、何故、口腔がん検診?”
02	「臨床研究部からのお便り」-第7回-
03	園芸活動「にじろガーデン」
04	ヨーロッパアレルギー学会に参加して 異動のごあいさつ
05	5病棟の生活のひとコマ ^㊸ 「やまぼとギャラリー」情報コーナー 「通所支援事業」には誰がいるの???
06	Medical Safety Letter 安全便り(7月) 外来からのお知らせ/外来診察のご案内

“いま、何故、口腔がん検診?”

近年の長寿化が言われるなか、日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっています。そのなかで口腔がんは舌がん、歯肉がん、頬粘膜がん、口蓋がん、口唇がんなどがあり、そのうち日本人に一番多いのが舌がん(口腔がんの約60~70%)です。

現在、日本人の死亡原因第1位は「がん」であります。その中でも口腔がんは「死亡率46.1%(第10位)のがん」なのです。

● すい臓がん 1位(94.9%)	● 胃がん 15位(38.7%)
● 肺がん 4位(67.8%)	● 子宮頸がん 16位(24.7%)
● 肝臓がん 6位(63.8%)	● 乳がん 19位(19.3%)
● 口腔がん 10位(46.1%)	● 皮膚がん 23位(10.3%)

(2013年 国立がんセンター)

まさに「がんは日本人の国民病」と言っても過言ではないかもしれません。しかし、「口の中にもがんができるの?」と驚かれる人もいます。それだけ口腔がんは認知度が低いのが現状です。しかし、頭頸部がんの中でも喉頭がんに次いで多いのが口腔がんです。がん全体からすれば約1~3%と低い数値ではありますが、日本では毎年約7,000人が口腔がん(咽頭含む)で亡くなっています。残念ながら、この数字は年々増え続けています(2013年 国立がんセンター)。口腔がんの5年生存率は60~80%と比較的高く、初期の段階で発見・治療をすれば、十分に元の生活を取り戻すことが可能です。しかし、進行すれば、命を救うために手術で舌や顎の骨を切除しなければならなくなり、食事や会話がとても不自由になります。

アメリカをはじめとした先進諸国では、口腔がんの早期発見・早期治療が積極的に行われているため、日本より口腔がんになる確率は高くても、早期発見による治療で死亡率は減少傾向にあります。しかし、日本はどちらも増加の一途をたどっています。この違いは一体どこにあるのでしょうか? 前述したように日本では「口の中にも

がんができるの?」と言った気運もあり、たとえ口腔内の異常に気づいても医療機関に受診することが遅い傾向にあります。厚生労働省は未だ口腔がんを希少がん(年間発生数が3,000人以下)と位置付けています。そのため他のがんに比べ認知度が低いことが大きな原因のひとつでもあります。口腔がんから大切な命を守り、いつまでも健康で快適な生活を送るためには、口腔がんの認識、予防、早期発見、早期治療が不可欠なのです。

主な口腔がんの原因

- ▶ 生活習慣(喫煙、飲酒等)
- ▶ 歯列不正(歯並びが悪い)、義歯不適(入れ歯が合わない)
- ▶ う蝕(虫歯)・歯周病、詰め物・被せ物不適
- ▶ 舌小帯付着異常(舌の裏の紐のような部分が短い方は要注意)
- ▶ アマルガム(金属の詰め物)
- ▶ 口内炎(10日くらい経過しても治らない場合は要注意)
- ▶ HPV(ヒトパピローマウイルス)など

まずは受診で!

口腔がんはほかのがんに比べて発見しやすく、早期発見であれば5年生存率は90%以上の完治が十分可能です。一般的に粘膜変性が口腔がんになるまでには5~6年かかると言われており、ご自分での口腔内チェックに加え、歯科医院での口腔がん検診を受けることで早期発見・早期治療ができます。

がん全体からみればその発生率は約1~3%と低い数値ではありますが、「数値が低い=かからない確率のほうが高いから大丈夫」と楽観視するのはあまりに危険です。絶対に口腔がんにならないという保証はどこにもなく、進行すれば死亡率も決して低くはないのです。そのためにも半年に一度は口腔内検診を受けるようお勧めいたします。(歯科口腔外科医長 松村 佳彦)